

全国・学力学習状況調査等の結果と指導改善計画について〔国語〕 三原市立久井小学校

本年度正答率			本年度の結果について
	国語A	国語B	<p>○取組の成果と課題</p> <p>昨年度の各種学力調査結果から、「書くこと」の領域「引用したり、読み取った複数の内容を関係づけたりして、自分の考えを具体的に書くこと」に課題があることが明らかになった。そこで次の3点を工夫して取組を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的に応じて、適切に引用する指導を充実させる。 2 条件に合わせて書く学習をする。 3 自分の考えを話したり、書いたりする場を設ける。 <p>その結果として、その結果、A問題「書くこと」の通過率は、全国比+7.2ポイント、B問題「書くこと」でも、全国比+8.5ポイントと一定の成果がみられた。しかし、依然記述式の問題の通過率は低い。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の調査から新たに明らかになった課題</p> <p>漢字やローマ字についての問題の通過率が低く、定着が十分でないことが分かった。また、設問の意図と何を答えなければいけないかをつかむことが十分でなく、資料の読み取りにつながっていない。「話す・聞く」の領域・観点の通過率が低い。(58.1%)</p>
本校	80.6	66.6	
広島県	78.4	60.5	
全国	72.9	58.7	

重点課題	標準学力調査に向けた重点取組
<ol style="list-style-type: none"> 1 漢字を書くこと (相談) 2 ローマ字を書いたり読んだりすること (りんご→ringo・hyaku→ひゃく) 3 何を答えなければいけないか、つかむことができていない。(B問題) <ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りと分析が十分ではない。 ・条件に合う記述が難しい。 	<p style="text-align: center; color: blue;">「授業改善」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科において、グラフ等を基に分かったことを的確に書く活動を取り入れる。 ・漢字やローマ字についてのミニテストを行い、定着を図るとともに、スモールステップでつまづきを把握し、間違いやすい点など指導にいかす。 ・話し合い活動を充実させる。→話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って質問内容を考えさせる。 <p style="text-align: center; color: blue;">「校内体制の構築」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を全員で解き、課題分析を教科グループで行い、学校全体の課題として捉える。 ・補充学習の場(ドリル朝会:火・金)を設定し、学び直しの機会とする。 <ul style="list-style-type: none"> →現学年の漢字練習だけでなく、既習の漢字練習(漢字マラソン)もさせたり、定期的にローマ字練習をさせたりする。 →設問の意図を考えて、この問題には、これとこれについて書かなければならない」というとらえ方の指導をする。

取組計画表

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)		<ul style="list-style-type: none"> ・課題分析を教科グループに分かれて行い、課題について論議する。 ・ドリル朝会について確認する。 ・単元の終末に行う問題について各学年の取組状況の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間の取組を交流する。 ・ドリル朝会の進捗状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月実施の取組に向けて全校にて問題を行わせるための確認を行う。 ・冬季休業中の課題について確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度標準学力調査実施について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準学力調査について自校採点を行い、課題について分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間のまとめ ・成果と課題 ・次年度の授業改善に向けて
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> 単元末の学力補充 ドリル朝会にて学び直しをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリル朝会 単元末学力補充 	<ul style="list-style-type: none"> 【見取】 12月中旬実施 課題は冬季休業中前に補充 	<ul style="list-style-type: none"> 【検証】標準学力調査 市平均+3 	<ul style="list-style-type: none"> 【補充】 課題について各学年での取組 ドリルタイムにて補充 	<ul style="list-style-type: none"> 【見取】 2月末から3月実施

本年度正答率

	算数A	算数B
本校	82.1	51.4
広島県	79.7	49.5
全国	77.6	47.2

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の各種学力調査結果から、「量と測定」「数量関係」の領域「複数のグラフ・資料を関係づけて自分の考えを説明すること」に課題があることが明らかになった。そこで次の3点を工夫して取組を行った。

- 1 具体物を用いたり、言葉、数、式、図を関連付けたりして説明する指導の工夫を行う。
- 2 学習したことを生活と結びつける。
- 3 自分の考えをかいいたり、説明したりする場を設ける。

その結果、A問題「量と測定」の通過率は、全国比+5.9ポイント、B問題「量と測定」でも、全国比+0.7ポイントと少しではあるが成果が見られた。

しかし、式の意味を数や演算の表す内容に着目して説明することの通過率が大変低く、依然記述式の問題が課題として残った。

○全国学力・学習状況調査の調査から新たに明らかになった課題

「領域『図形』『数量関係』」、「評価の観点『数学的な考え方』」、「問題形式「記述式」」に課題がある。

重点課題

- 1 日常生活の事象における数学的な表現の活用と解釈
 - ・ハードル走の場面において、示された式の中の数値の意味をほかの数値や演算と関連付けて解釈し、それを言葉や数を用いて記述できない。
- 2 図形の構成と論理的な考察
 - ・算数の問題場面で見出したことを図形の構成要素に着目して論理的に考察することができない。
- 3 割合を二つの量の関係として捉えることができない。



標準学力調査に向けた重点取組

【授業改善】

- ・自分の考えを言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて数学的に表現し、児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動の場を1単元に1回は設定する。→自力解決場面の工夫、全体学習・協働学習の工夫
- ・日常生活の場面の中から児童にとって必要感のある場面を取り上げ、その場면을数理的に捉えて問題を解決する学習を工夫する。→課題設定の工夫
- ・なぜ図形が構成できるのかを図形の特徴や角についての知識などを基に考える場の設定を行う。
- ・割合を二つの量の関係として捉えさせ、割合の大きさがおよそどの程度の大きさであるのかを捉えさせるために割合の大小について検討づける場面も設定する。

【校内体制の構築】

- ・問題を全員で解き、課題分析を教科グループ分けて行い、学校全体の課題として捉える。
- ・ドリルタイムを設定し、学び直しの機会を与え、習熟度別に全教職員で取組を行う。

取組計画表

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)		・課題分析を教科グループに分かれて行い、課題について論議する。 ・ドリルタイムについて確認する。 ・単元の終末に行う問題について各学年の取組状況の確認を行う。	・中間の取組を交流する。 ・ドリルタイムの進捗状況を確認する。	・1月実施の取組に向けて全校にて問題を行わせるための確認を行う。 ・冬季休業中の課題について確認を行う。	・平成28年度標準学力調査実施について確認する。	・標準学力調査について自校採点を行い、課題について分析する。	1年間のまとめ成果と課題 次年度の授業改善に向けて
児童への取組		ドリルタイムにて学び直しをさせる。 単元末の学力補充	ドリルタイム 単元末学力補充	【見取】 12月中旬実施 課題は冬季休業中前に補充	【検証】標準学力調査 市平均+3	【補充】 課題について各学年での取組 ドリルタイムにて補充	【見取】 2月末から3月実施